

様式1

令和7年度 学校評価表

学校教育目標		ともに学び合い、未来を創る子供の育成													
a ミッション		小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成				a ビジョン		○児童の主体性を育み、未来につなげる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携を深め、学び合いにより相互に高め合う学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校				尾道市立美木原小学校			
評価計画						自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
学びを創る	確かな学力の育成	読解力の向上	①「言葉」を手がかりにした「読むこと」の指導。 ・計画的な校内研修の実施 ・授業内に話すこと・読むこと・書くことを取り入れる。	①国語科単元末・学期末テスト（思考・判断・表現）80点以上の児童の割合	①80%以上	①81%		A	・国語科単元末・学期末テストの読み取り領域において、80点以上の児童の割合が81%であった。フレームリーディングを取り入れた読む活動に重点的に取り組んだ成果が見られる。引き続き、伝え合う授業を行いながら、読みを深める授業づくりについて研修を重ねていく。 ・確かな学力の育成に係る児童アンケートにおいて、1学期末の肯定的評価は84%であった。項目で見ると、「ドリルタイムに、集中して取り組んでいます」については、89%と高く、ドリルタイムを毎日続ける中で、自信をもって音読をする姿が見えてきたことが考えられる。また、「3月のかえりでは、『どこまで分かったか』『もっと考えてみたいこと』を考えています。」については、76%と目標値の80%を下回っており、授業において、学んだことを実感できる場を設定し、次の活動への見通しをもたせる振り返りをしていく必要がある。	3			・フレームリーディングの継続、工夫をしながらの取組をどうぞ継続してください。継続は力です。 ・「ドリルタイム」「音読」「紹介し合い」等の中で、面白いものに出会えるかもしれませんね。 ・引き続き、次の活動への見通しをもたせる「振り返り」の場面を設定していただきたい。 ・ストーリーを理解するだけでなく、主人公の心情の変化を知るフレームリーディング。私には大変高度な技術に感じます。	・教職員の読みを深める授業づくりを技能を向上させるために、学校内外でフレームリーディングについての研修を重ねていく。 ・ドリルタイムが全校の取組になるように、教員間で指導法を共有したり、学習の様子を見合ったりして、学習指導を積み重ねる。 ・授業において、学んだことを実感できる場を設定し、次の活動への見通しをもたせる振り返りをしていく。	
			②基礎学力を高めるためのドリルタイムの充実。 ・全員が集中して取り組む10分間の実現。 ・毎回のドリルタイムで音読に5分以上取り組む。	②標準学力調査の通過率「読むこと」全国平均以上の児童の割合（国語科）	②80%以上	②未実施									
			③話し合い活動の充実 ・互いの考えを伝え合う時間を毎時間の授業内に設定する。	③児童アンケートの肯定的評価	③80%以上	③84%									
生活を創る	「学校生活を創る」主体的で実践的な力の育成	主体性の向上	①学級活動の充実 ・児童主体の話し合い活動（形式を統一）	①児童アンケートの肯定的回答の割合（7月・12月実施） ・学級活動について（全学級） ・委員会活動について（5・6年）	80%以上	120%		A	・1学期の児童アンケートの結果、肯定的評価をした児童の割合は、学級活動については83.8%で、委員会活動については100%だった。今年度の6月には全校児童が「いじめをなくすにはどうすればよいのだろう。」を議題にし、各学級でクラス会議を行った。どの学級も月に1回以上クラス会議を行っており、自分の考えを友達に伝えようとする姿が多く見られた。 ・どの委員会も半期に1回以上イベントを企画し、主体的な活動ができた。 ・今後は、話し合いを通してよりよい解決策を考えたり、実践したことを振り返ったりしながら児童が「話し合いをして良かった。」と実感を持てるようにしていく。	3			・暑い日が続く、普通の外遊びに制限がかかる不思議な時代。でも、その中でも楽しく遊べることを考えていくというのは頼もしいです。 ・児童ひとりひとりが発言しやすい環境づくりをお願いしたい。 ・小5の担任に「本を読め」小6の担任に「新聞を読め」と言われ、その習慣がついたと思います。そのおかげで歴史が好きになり、「歳時記」等を読んだり、川柳等を投稿したりするようになりました。	・クラス会議をどの学級も月に1回以上行い、学校生活について主体的に考え、自分の考えを友達に伝えられるようにする。そのための環境づくりについて研修を行う。委員会活動では、異学年の児童が仲良くなる取組等や自由な話し合う時間を設定し、主体的な活動を促す。 ・話し合いを通してよりよい解決策を考えたり、実践したことを振り返ったりしながら児童が「話し合いをして良かった。」と実感を持てるようにしていく。 ・引き続き「学校まるごと図書館」として、児童の身近なところに図書や新聞を置き、手にとることができる環境づくりを進める。	
			②委員会活動の充実 ・児童主体の児童集会等の実施（月に一度の児童集会、全校発表、イベント活動、半期に1回以上）												
働き方改革	豊かな教育活動の実践	働き方の質の向上	学級・学年間交流を通した複数指導による協働的な働き方の実践	教職員アンケート「組織の一員として協働的な働き方ができた」の肯定的回答（7月・12月）	85%以上	105.0%		A	・1学期の教職員アンケートの結果、目標値を5ポイント上回ることができた。行事や体育、音楽等で複数指導を行い、指導の効果や児童の意欲を高めることにつながった。また職員のリターンからも「ベア学年での指導により協働的な場面が増えた」「相談しながら活動できた」等協働的な働き方の向上が成果として見られる。課題としては勤務時間が異なる職員との連携が不十分であることが挙げられる。連携の取り方の工夫や全体に目を向けた働き方に取り組む。	3			・先生方が風通しよく、また情報を共有し合いながら、どの児童にも目をかけて指導されている様子が伺えます。声をかけてもらえるのはうれしいことだと思います。各々が健康な状態で頑張ってください。 ・今後も教職員同士の連携を深めてほしい。 ・今の学校生活は、私のころより大きく代わり、負け惜しみになりますが、「便利なほど、リスクが大きい」と実感しています。	・今後も目指す子供の姿を明確にして交流を進め、具体的に取り組むことを共有する。 ・2学期以降の予定や計画（学習指導や行事等）に各職員が見通しをもち、早めに取り組む。 ・安全・安心な学校環境を整えるために危機管理を常に行い、気づいたことがあれば、報告・連絡・相談を行うことを徹底する。	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。